

The Defacto Gazette

INFORMING | INSPIRING | EMPOWERING

2025 年 8 月 4 日 (月) No.345

モンゴル発の政治・経済・社会を分析する
独立した週刊新聞

www.jargaldefacto.com

MONGOL WATCH 3 ページ

週間モンゴル情報 7/28~8/1

一週間のモンゴルの出来事をコンパクトにまとめて紹介します。今週は、ザアマルバヤスガラン国会議長が世界国会議長会議に出席したことについてなど。



世界水準のホールで奏でる馬頭琴オーケストラ

【MNT 為替情報】

	¥1 = ₮24.370
	\$1 = ₮3592.85
	£1 = ₮4769.25
	€1 = ₮4164.48
	¥1 = ₮498.12
	₽1 = ₮44.868
	₩1 = ₮2.5862



デファクト Article

アリウナー・ジャルガルサイハン

芸術評論家

モンゴル国立フィルハーモニーのコンサートホールにおいて、馬頭琴オーケストラによる「モンゴル音楽」シリーズ公演が行われ、有名作曲家および新進作曲家の作品が披露され、観客を楽しませた。

年々規模を拡大している馬頭琴オーケストラは、マエストロ D. トゥブシンサイハンの巧みな指揮の下、作曲家 E. ドルジスレン、ツェン・エルデネバト、Kh. アルタンゲレル、Sh. オルジバヤル、N. ジャンツァンノロブらの優れた作品を蘇らせ、馬頭琴とモンゴル管弦楽の魅力を国内外の観客に存分に感じさせる素晴らしい夜となった。

プログラムには、Kh. アルタンゲレル作曲「天空の輪」、Sh. オルジバヤル作曲「天界」、N. ジャンツァン

ノロブ作曲「シンフォニエッタ」、E. ドルジスレン作曲「モンゴルの空間」組曲、ツェン・エルデネバト作曲「大いなる大地」など、馬頭琴オーケストラのための協奏曲が含まれていた。各作品は署名のようにそれぞれ独自の要素を持ち、豊かなテーマ、色彩、思想を備え、モンゴルの民族音楽と世界の古典交響楽の伝統や様式を精巧に調和させ、馬頭琴のこの上もない響きによって満場の観客の心を動かした。

いくつかの作品は、世界的に有名な偉大なクラシック作曲家のライトモチーフやリズム様式を引用し、西洋音楽文化をモンゴル作曲家・指揮者・演奏家の伝統と感性を通して、アジアとヨーロッパの境界を見事に交差させ、多彩かつ極めて独創的な響きを作り出していた。自然現象や両親の恩徳を讃える旋律が響くとき、モンゴル人の心は晴れやかになり、常に前向きに導く音色を聴くことの素晴らしさがあつた。また、現代の映画音楽にも適合し得る動きや、冒険、戦闘、抒情、喜悅などの想像力をかき立て、心を震わせる見事な作品も聴かれた。



N. ジャンツァンノロブ作曲「シンフォニエッタ」は、モンゴルの現代の仕事と生活のリズム、変化と変革を繊細に感じ取り、熟考した、強い印象を残す傑作であった。作品には打楽器の鋭く力強い部分が多く、その音が会場に響くたびに観客である我々は思わず身を正して座り直すほどであった。演奏の終わりには、ホールがしばしの間静まり返った後、何が起きたのかと驚嘆するかのように拍手が起こった。クラシック音楽の歴史においても、偉大な作曲家の作品でこのような瞬間が訪れることは後に記録されている。

作曲者は、シンフォニエッタは成長し変化を続ける馬頭琴オーケストラの構成に合わせて書かれたと語っていた。この作品は時計の針の動きのようなテンポを

持ち、現代モンゴル社会の変化する姿を見事に映し出した、深い意味を持つ代表的な傑作であった。

馬頭琴アンサンブルは 1992 年に 20 人の演奏家の編成で初めて結成された。今日では 50 人を超える演奏家を擁し、室内オーケストラの規模に達したことから、その名称を「馬頭琴オーケストラ」と改めた。モンゴルのクラシック音楽界の第三、第四、第五世代の作曲家たちは、国内にとどまらず世界レベルに達する才能を示し、この素晴らしい貴重なオーケストラを通して国際的な観客に継続して作品を届けていることは誇らしいことである。

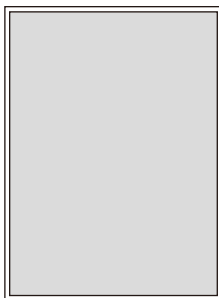
したがって、比類なき二弦楽器である馬頭琴をはじめ、モンゴルの他の楽器を奏でる演奏家たち、国立フィルハーモニー、他のジャンルの音楽家たちのために、音響が優れ、最新設備を設計段階から考慮して備え、どの国のオーケストラでも訪れて共演や録音が可能な、世界水準のホールや施設を整える時が来たのである。アメリカ・デンバー市にあるデンバー芸術センターのボエッチャー・コンサートホールの現代的なホールを手本とすることもできるであろう。

2025 年 7 月 18 日■

モンゴルで事業を手掛ける日系企業、日本とビジネスを希望するモンゴル企業へのご提案

The Defacto Gazette 日本語版に広告を出してみませんか。

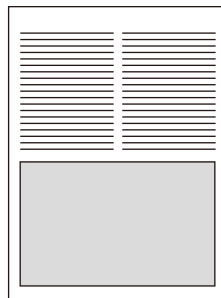
1 ページ全画



270mm x 200mm

50,000 円 / 回
(税込み)

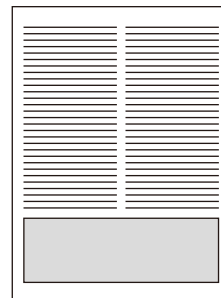
1/2 ページ



125mm x 180mm

30,000 円 / 回
(税込み)

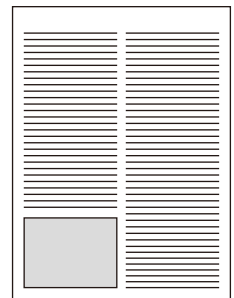
1/4 ページ



60mm x 180mm

18,000 円 / 回
(税込み)

1/8 ページ



60mm x 85mm

10,000 円 / 回
(税込み)

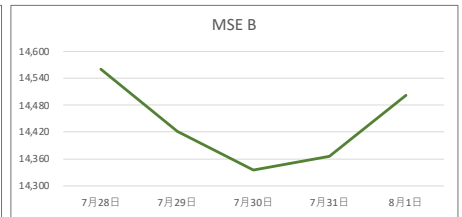
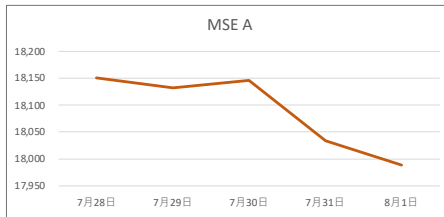
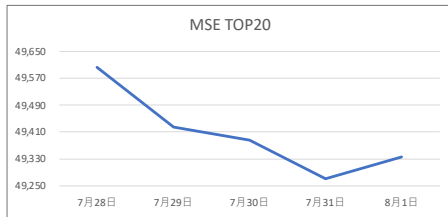
PDF 形式で配信されるので広告にリンクを張ることも可能です。

1 回あたりの広告料金となります。5 回以上掲載のご契約で 10% 割引となります。
お問い合わせは、この広告をクリック、または下記メールで受け付けております。

info@defactogazette.com

モンゴル株価指標（モンゴル証券取引所インデックス）

日付	MSE TOP20	前日比	MSE A	前日比	MSE B	前日比	出来高
7月28日	49,602.28	↑ 0.23 %	18,150.94	↓ 0.06 %	14,560.64	↑ 0.49 %	436,868 株
7月29日	49,423.90	↓ 0.36 %	18,132.08	↓ 0.10 %	14,420.92	↓ 0.96 %	873,314 株
7月30日	49,386.20	↓ 0.08 %	18,146.28	↑ 0.08 %	14,334.74	↓ 0.60 %	613,888 株
7月31日	49,270.38	↓ 0.23 %	18,033.57	↓ 0.62 %	14,365.88	↑ 0.22 %	772,272 株
8月1日	49,335.49	↑ 0.13 %	17,988.50	↓ 0.25 %	14,501.94	↑ 0.95 %	544,078 株



2025/7/29【外交】

アマルバヤスガラン国会議長が 世界国会議長会議へ参加

アマルバヤスガラン国会議長は、2025年7月29日から31日の日程で、スイスのジュネーブ市で開催された第6回世界国会議長会議に出席した。

モンゴル国会は1962年に国際議会連盟（IPU）の加盟国となり、それ以来、この会議に継続的に参加し、世界の議会共同体の活動に積極的な貢献を行ってきた。今回の第6回世界国会議長会議には、世界180か国以上の国会議長、国際機関、研究者、市民社会の代表者らが参加した。国際関係における責任と民主主義の推進、議会外交を平和と相互理解に向けること、市民の声を国連に届けること、国際的な約束を現実の成果に結びつけることなどについて議論した。

国会議長会議は、各国議会間の協力を強化し、世界が直面する課題の解決における議会の役割を高めることを目的とする、ハイレベル会合であり、4年ごとに開催される。

【国民評議会議長と会談】

アマルバヤスガラン国会議長は、国際議会連盟（IPU）のトゥリア・アクソン会長、マルティン・チュンゴン事務総長、国連ジュネーブ事務局のタチアナ・バロバヤ所長、国連事務局のオーレル・K・レットレイ局長らに迎えられ、挨拶を交わした。その後、アマルバヤスガラン国会議長は、スイス連邦国民評議会（下院）

議長マヤ・リニカー氏と公式会談を行った。

会談の冒頭、アマルバヤスガラン国会議長は、スイスはモンゴルにとって第三の隣国であり、欧州における信頼できるパートナーであると述べた。そして、両国の関係と協力を社会・経済の多くの分野で拡大することを志向していると強調した。

また、モンゴルにおける民主主義、法の支配、議会制度の強化に向けて、スイスとともに効果的なプロジェクトを実施してきたことを振り返った。その中には、スイス議会の立法活動に関する協力、特に国民投票の実施や直接民主制の原則の適用に関する協力が含まれており、これまでの協力に対する感謝の意を表明した。さらに今後は、立法機関およびその事務局間の関係を拡大し、双方の関心分野で実質的な協力を展開するために、モンゴル国会として支援を惜しまないと述べた。

マヤ・リニカー議長は、両国は地理的には離れているものの、平和的かつ多国間協力を重視する共通の価値観を有しており、関係と協力が一層強化されていることを喜ばしく思うと表明した。

また、立法機関および事務局間の協力が成果を上げている証として、今秋には議会監督に関する優れた経験を共有するため、スイス国民評議会代表団がモンゴルを訪問する予定であることを強調した。さらに、スイス開発協力庁はモンゴルでの活動を停止したものの、経済問題担当国務秘書局（SECO）が以前に開始したプロジェクトは引き続き資金提供されており、モ

ンゴル国会による支援を求める意向を示した。

また、スイス連邦議会内にモンゴルとの交流グループを設立する可能性について意見交換を行った。

【国会議長会議で演説】

国際議会連盟加盟 180 か国のうち、84 か国の国会議長、18 か国の副議長が参加しているこの会議において、アマルバヤスガララン国会議長は、会議の全体討論「危機の世界における平和と公正の普及：議会間協力と多国間主義」において演説を行った。

アマルバヤスガララン国会議長は、固有の特徴、文化、伝統、慣習、価値を備えた各国は、新たな国際秩序の形成過程に平等に参加し、多極的な世界を築くべきであると強調した。また、平和を重んじ、開かれた独立のかつ多極的な外交政策と原則を掲げるモンゴルにとって、いかなる課題も調和と対話の道で解決することが、世界の平和と安全保障の強化にとって重要であると述べた。

さらに、世界の平和と安全を確保する上で、議会の関与とリーダーシップは極めて重要であるとし、モンゴルは議会制を強化し、社会の平等な参加を保証するため、憲法改正を行い、国会議員数を 126 名に増員し、選挙に混合制度を導入したことを紹介した。この改革により、女性議員数は 32 名となり、国際議会連盟が掲げる目標に近づいていることを指摘した。

また、モンゴル国会は 2024 ～ 2028 年の戦略計画を承認する際、人間中心で人権を尊重する「三つの充実」の方針を打ち出し、その結果として、人権を保障し、法が支配し、民主的な社会の基盤が一層強化されることを確信していると述べた。

複数国間の協力と市民参加に基づく民主的・代表制の仕組みこそが、安定と平和を強化する基盤であり、モンゴルは国際社会に対する責任を果たし、国際議会連盟や各国議会と協力して、より平和な未来の構築に向けて着実に取り組んでいくと強調した。

【全日程を終了】

今回の第 6 回世界国会議長会議には、世界 90 か国以上が国会議長レベルで参加し、現在世界が直面する主要な課題に対して立法機関がいかに貢献できるかに

ついて議論した。

具体的には以下の五つの分野で分科会が行われた。

- ・分断と対立が拡大する時代における議会における女性と若者の参加
- ・平和な未来を築くための革新的解決策の模索
- ・2030 年までに持続可能な開発目標（SDGs）を達成するための新たな可能性の追求
- ・デジタル未来の構築における議会の役割
- ・差別撤廃のための包括的措置の推進

会議に参加した代表者は、武力衝突の問題が安全保障を脅かし、国際法の原則が失われつつある今日、議会間の協力と多国間主義を強化することの重要性を強調した。また、第 6 回世界国会議長会議では、議会におけるジェンダー平等の推進、差別撤廃、持続可能な発展の確保が注目テーマとなった。

モンゴル代表団は、パートナー国の国会議長や国際議会連盟の幹部と公式会談を行い、関係と協力について意見交換した。公式会談は、ロシア連邦、スイス連邦、日本、大韓民国、朝鮮民主主義人民共和国、カナダ、カザフスタン、グレートブリテンおよび北アイルランド連合王国、シンガポール共和国の国会議長、ならびに国際議会連盟のトゥリア・アクソン会長、マルティン・チュンゴン事務総長と行われた。

また、地域諸国の国会議長との意見交換は、今回の会議の呼びかけに沿って、北東アジアの安全保障を強化するための「ウランバートル対話」を議会レベルで拡大する可能性を開くものと評価された。モンゴルは地域における積極的なプレーヤーとしての立場を維持し、これらの国々との協力、特に議会間協力の発展について幅広く協議した。

さらに、アマルバヤスガララン国会議長は、国際議会連盟のマルティン・チュンゴン事務総長とともに、モンゴル国会と国際議会連盟の協力に関する覚書の延長文書に署名した。これにより、覚書の有効期間は 2028 年まで延長され、人権やジェンダー平等の推進に加え、モンゴル国会の 2024 ～ 2028 年戦略計画に掲げる目標の実現に向けて協力する基盤が整った。

今回の第 6 回世界国会議長会議では、平和、公正、人類の発展に向けた道筋を示す宣言が採択された。この宣言により、各国議会は平和のプロセスを強化し、

それを立法に反映させ、実効的成果に結びつける責任を引き受けることとなった。

2025/7/30【政治】

政府閣議

モンゴル政府の定例閣議が開催され、以下の決定が行われた。

【次年度予算は人間開発と教育を重視】

モンゴルの2026年度国家予算案の作成状況について、ジャブハラン財務大臣が閣議で報告を行った。「予算法」に基づき、7月25日までに財務・予算を担当する中央行政機関および関連機関に対し、2026年度予算案を提出済みである。

これに関連して、ザンダンシャタル首相は、2026年度予算案の作成にあたり、法律に基づき国民参加を確保して進めるよう、政府閣僚に次のように指示した。

「国家の金というものはなく、あるのは納税者の金だけである。予算の改革、節約、投資政策は国民・納税者に意見を求め、提案を受けて決定する。2026年度予算は人間開発と教育を支援する予算でなければならない。」

また、8月1日から2週間にわたり国民公開討論を実施し、意見集約に国民・納税者が積極的に参加できるよう関係者に注意喚起した。討論で出た意見は整理・優先付けされ、予算収入の増加や社会的意義の高いプロジェクトとして予算案に反映させ、閣議に提出される予定である。

また、予算案作成プロセスに市民が参加し、透明かつ公開された予算改革が始まった。国民からの意見募集は、2025年8月1日、すなわち本日から全国で開始された。意見は「11-11 センター」、E-Mongolia アプリ、各省庁の公式ウェブサイトを通じて受け付ける。また、分野別の対面型の公聴会は8月4日から14日にかけて開催され、合計12回実施される予定である。

【ウランバートルの熱供給システム】

エネルギー部門の2025～2026年冬季準備状況と、「第3発電所」国営株式会社の補修作業について報告が行われた。

2025年7月15日時点で、発電所の主要設備である69基のボイラーのうち、運転中は24基、待機中は20基であり、25基が補修中である。49基のタービン発電機のうち、運転中は23基、待機中は13基であり、13基が補修中である。システムの運転状態は正常であり、計画された補修作業はスケジュール通り進んでいる。

エネルギー部門全45社における2025～2026年冬季準備のための主要・補助設備の大規模修繕、技術整備、投資工事の進捗は50%となっている。

供給能力増強として、ブールルジュート発電所の第2ブロックを本年12月に稼働させる予定である。また、中国から必要に応じて電力を輸入可能にする準備を進め、220kV変電設備の建設工事を冬季負荷開始前に稼働させる計画である。

さらに、ウランバートル市の熱供給システムにおいて、供給スキームを変更し、第3発電所が供給している50Gcal/hを第4発電所およびアムガラン発電所に移す方針である。

【その他の報告（短報）】

・「モンゴル・中国エキスポ」の準備

モンゴルと中国の間で締結された「包括的戦略的パートナーシップ関係発展に関する共同宣言」の実施の一環として、第5回モンゴル・中国エキスポの準備・運営・指導・官民連携調整を担う作業部会のメンバーを再編した。このエキスポは、中国内モンゴル自治区フフホト市において、8月25～30日に開催される。

・国営エネルギー企業の経営効率化

エルチスト・モンゴル株式会社傘下の国営企業について、市場原理に沿った運営を目指し、ガバナンス改善、組織再編、効率・生産性向上を目的とする100日間の行動計画が閣議に報告された。取締役会の削減、経費節減、非効率支出の削減を狙いとした内容である。

・FAO駐モンゴル事務所設置協定案

モンゴル政府と国連食糧農業機関（FAO）との間で「FAO駐モンゴル事務所設置に関する協定案」を審議し、国会の関連常任委員会と協議することを決定した。

・砂漠化対策に関する国連会議（COP17）の準備

国連砂漠化対策条約第17回締約国会議（COP17）

が2026年8月17～28日にモンゴルで開催される。この会議の円滑な運営と省庁横断的な調整を行う国家委員会の活動を強化することを定める政府決定が出された。

2025/7/31【社会】

トゥール高速道路建設の土地収用が進行中

ウランバートル市の交通渋滞を約40%緩和する主要プロジェクトは、トゥール高速道路と新環状道路である。これらのプロジェクトは2025～2028年に実施する計画であり、トゥール高速道路建設の入札では、香港のハオユアン・グループが落札したことが7月23日に発表されている。現在、同社との契約交渉が継続しており、高速道路建設の準備作業が始まった。

具体的には、土地収用の対象は、バヤンズルフ区で6区画、バヤンゴル区で3区画、ハンオール区で15区画、ソングノハイルハン区で91区画、合計115区画である。このうち、最初に作業を行う15区画では代替地を提供し、用地を確保済みである。残りの100区画については交渉が続いている。

トゥール高速道路は2028年8月に供用開始予定である。この高速道路は、ウランバートル～ナライハ間道路から西部方面へ分岐する環状交差点まで、ウランバートル市南部のボグド山麓を通り、全長32キロメートルを6車線で建設される。国際基準のエキスプレスウェイとして信号機がなく、利用者は32kmをノンストップで通行できるようになる。

また、トゥール高速道路と接続する新環状道路の第1環状道路の施工業者を選定するための公開入札を公告する準備が進められている。ウランバートル市の24のメガプロジェクトの一環として、トゥール高速道路と新環状道路が供用されれば、市内の交通渋滞は約40%緩和されると専門家は見込んでいる。

2025/8/1【社会】

暖房を供給する63MW発熱電所が

来年12月に稼働予定

セルベ市とダンバダルジャー地区に暖房を供給する、出力63MWのダンバダルジャー発熱電所（CHP）の建設工事が、現在20%超の進捗で進んでいる。

現地を視察したダワラライ副市長は次のように述べた。「ウランバートル市が直面している最大の課題である大気汚染は、暖房不足が原因で発生している。そのため、ゲル地区の開発と投資支援プロジェクトの一環として、アジア開発銀行の協力で過去7年間に段階的なプロジェクトを実施してきた。そのうちの1つが、ダンバダルジャーのインフラ整備プロジェクトであり、チンゲルテイ区第19ホローに建設される63MWの発熱電所である。」

また、ウランバートル市ゲル地区開発・投資支援プログラムの主任技師であるG.ジャンラブツォグゾル氏は次のように説明した。「本プロジェクトの契約は2023年10月3日に締結され、施工業者は中国企業が選定された。建設工事は本年4月に着工し、現在の全体進捗は20%超である。基礎工事は70%超の進捗で、建設資材はすべて基準に合ったものをその都度中国から輸入している。現時点で、主ボイラーの鉄骨構造部材17台分の貨物が国境に到着している。作業は計画通りに進め、来年8月に建設工事を完了し、9月から試運転を開始する予定である。寒冷期までにボイラーおよび外装工事を完了させるよう、施工会社に指示している。ダンバダルジャー発熱電所の煙突は高さ86メートルで、現在65メートルまで組み上げられている。」

この63MW発熱電所は、29MWをダンバダルジャー地区に供給し、残り34MWをセルベ市北部の集合住宅に供給する計画で建設されている。■

次号は、8月18日に配信する予定です

The Defacto Gazette 日本語版

編集チーム

ダムバダルジャー・ジャルガルサイハン

編集長：バーサンジャルガル・オルトナサン

日本語版制作：中山 拓、トゥンガラグ・ニヤムダシ、Mongol Izumi Garden LLC

お問い合わせ

☎ +976-94109342

✉ editor1@jargaldefacto.com

🌐 jargaldefacto.com/